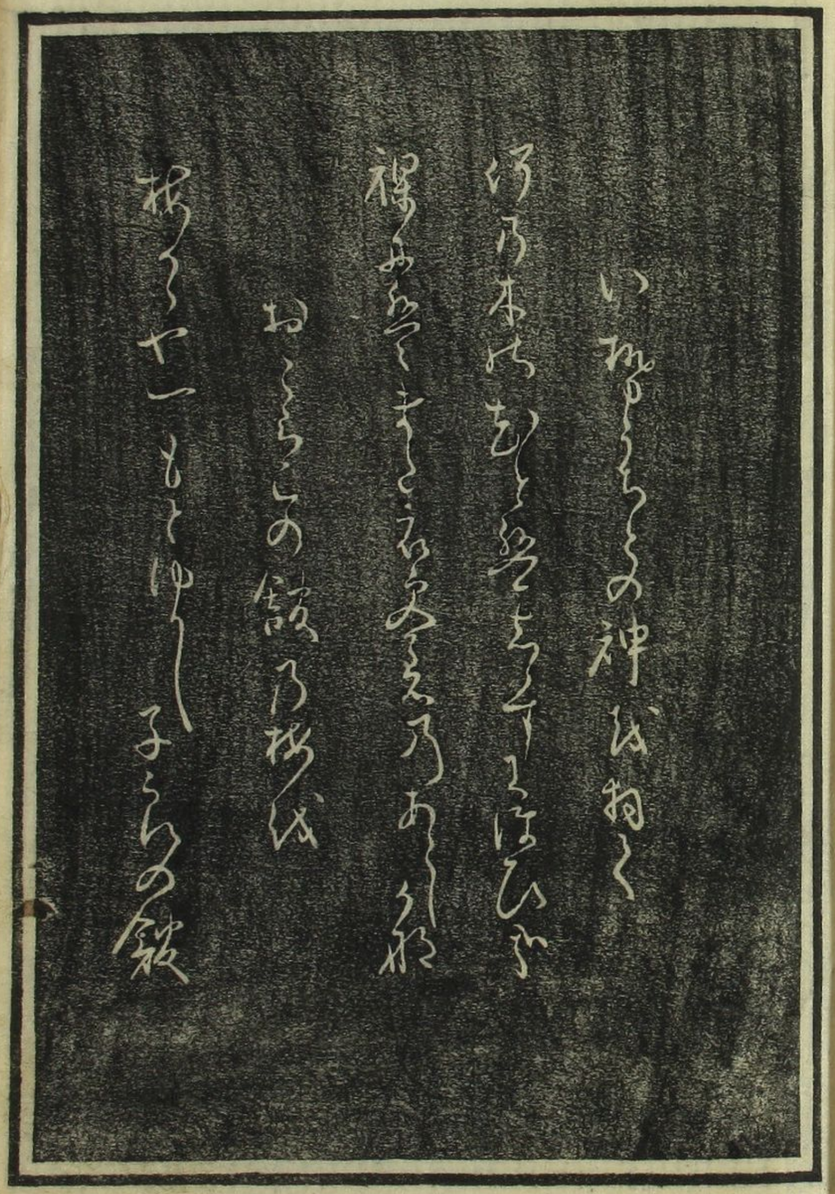
中村俊定文庫
文庫 18
881

清國袁氏論詩書曰嘗謂
詩有工拙而無古今自葛
天氏之歌至今日皆有工
有拙未必古人皆工今人

皆拙即三百篇中頗有未
工不必學者不徒漢晋唐
宋也今人詩有極工宜學
者亦不徒漢晋唐宋也如
吾國歌亦莫不符於此論
矣至俳體為最然也淡海
幻住菴主人蕙逸采緝今
世名家俳歌數千首上梓
行世請題辭于余〻不欲
贅蕪言抄録袁氏之確論



以贈

戊申歲仲春

膳所枚山鼎

元禄二辛巳年
[illegible]
芭蕉桃青

元日の蒙書
十の指墨元日

取為
清水
よみ

なるなる紀の
ふかいれや
ありかなまま

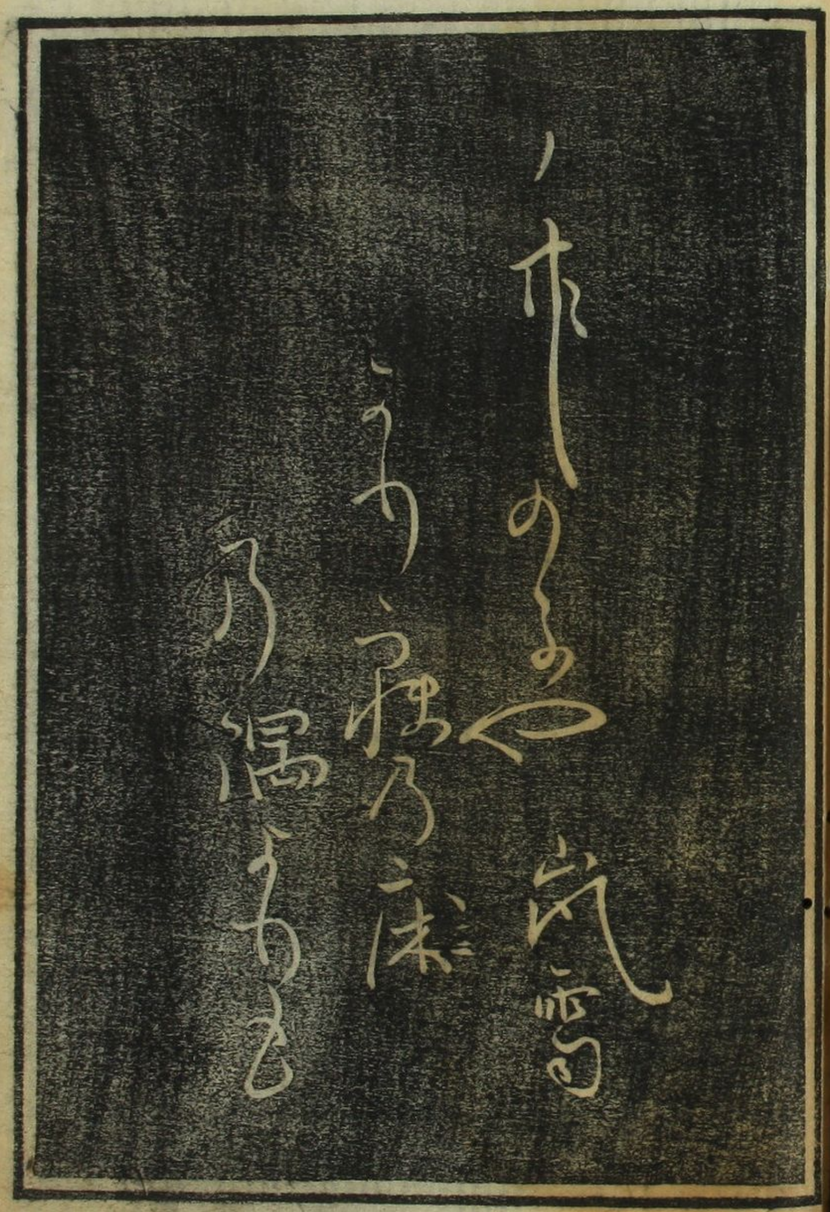
老子醉り
曙織屋の
うたゝ寝

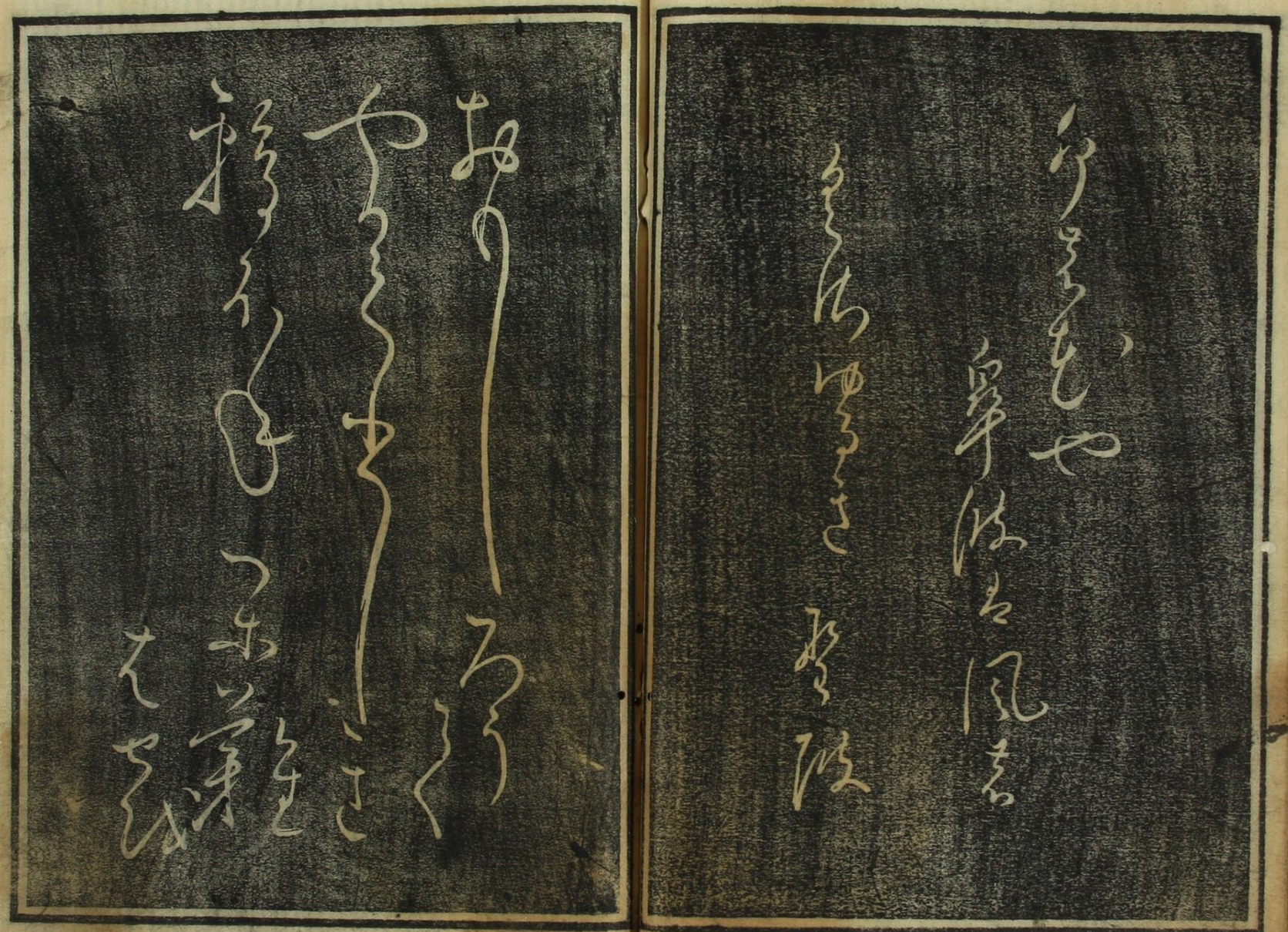
山路乃
紅葉屋
元重

[illegible]
[illegible]

夢幻泡影
露亦如電
應作如是
觀

冥府の夢殿
さるみやこ
ほうこうじ
許六





なをしたゝ
ふみかきて
雑もふし當

燈すし疎ゝ
ゝ

猪す
ぬき
かつら彫
とと
ぶ正寿

まゆたて
おなぎなて
ゑ彫のむ

人丸乃ことは ほのほの
とあかしの浦の
うきね松古し立つ
歌よみ出ぬる一首乃
外也三つ乃うたとも
うつるおもひのこえて
あさけたる心さし也

祝ひて 斗閑
初生はこもしあらせ
楊の影月下を
いかにし連生

藤原の興風

たれをかも
しる人にせん
高砂の
松も昔の
友なれど

角上

五尺さらさらしたる
ゆかたはうすい

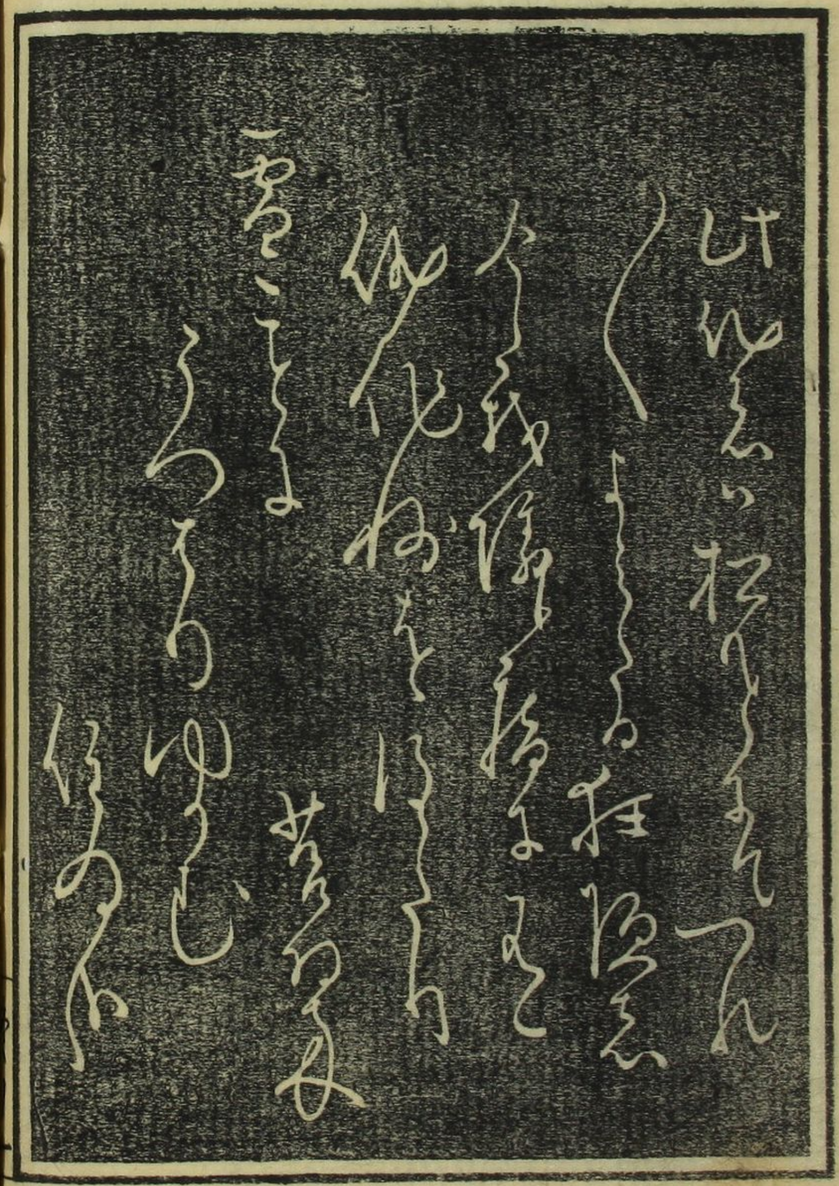
十五 音子
春四月

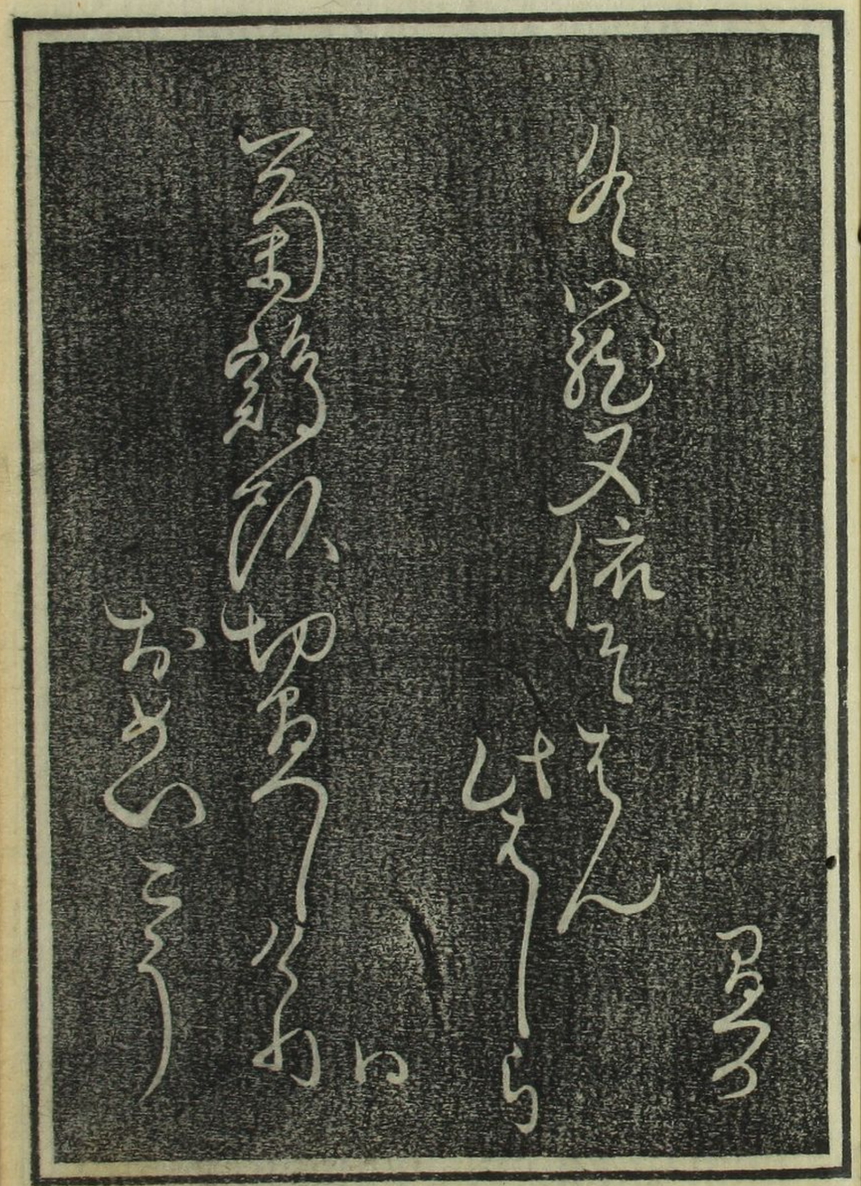
自力とも
夢にや姫の
くるかき

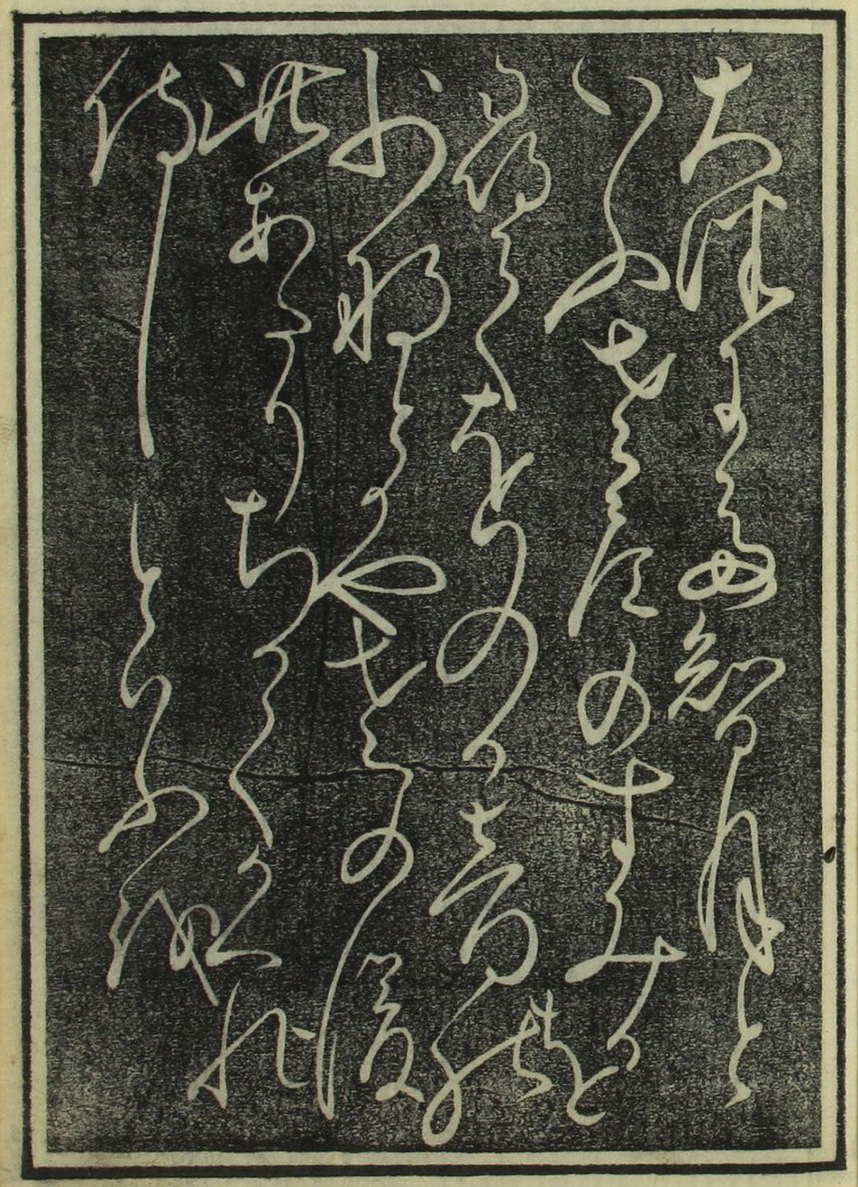
雪

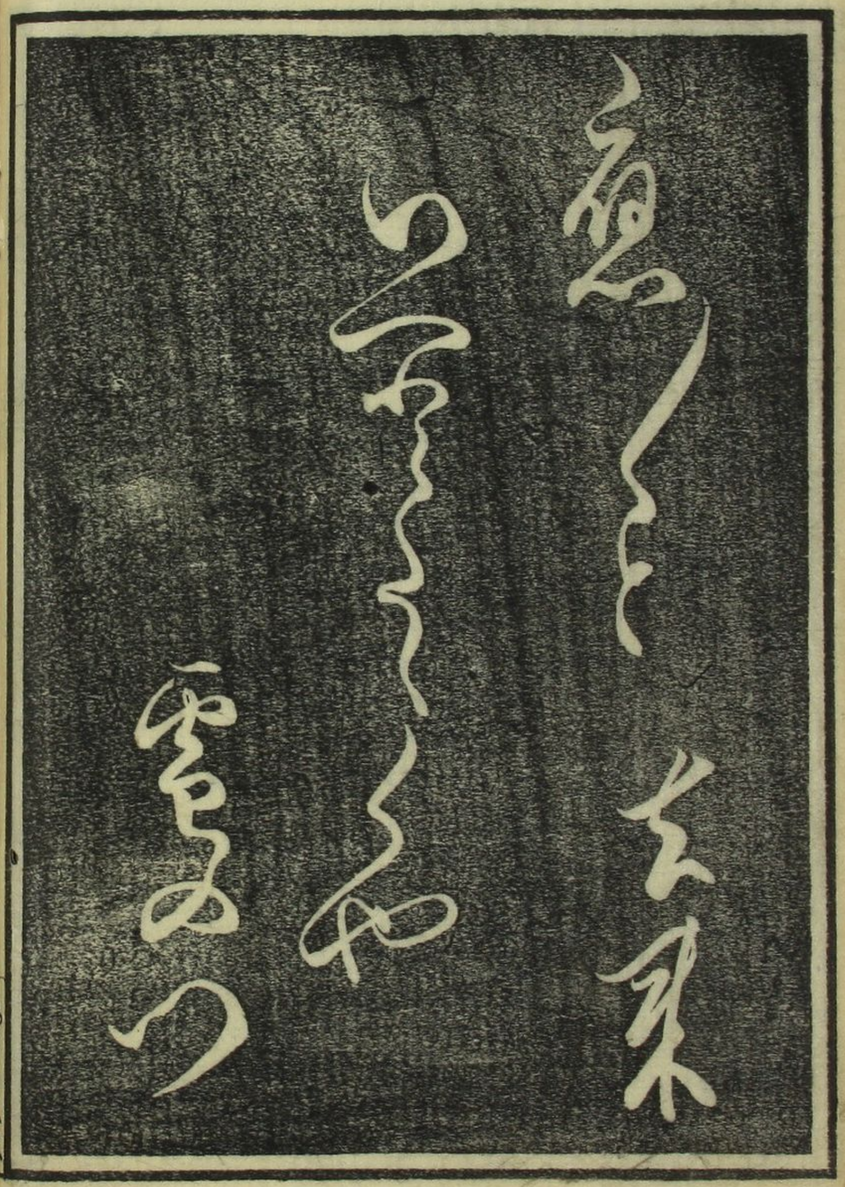
其角

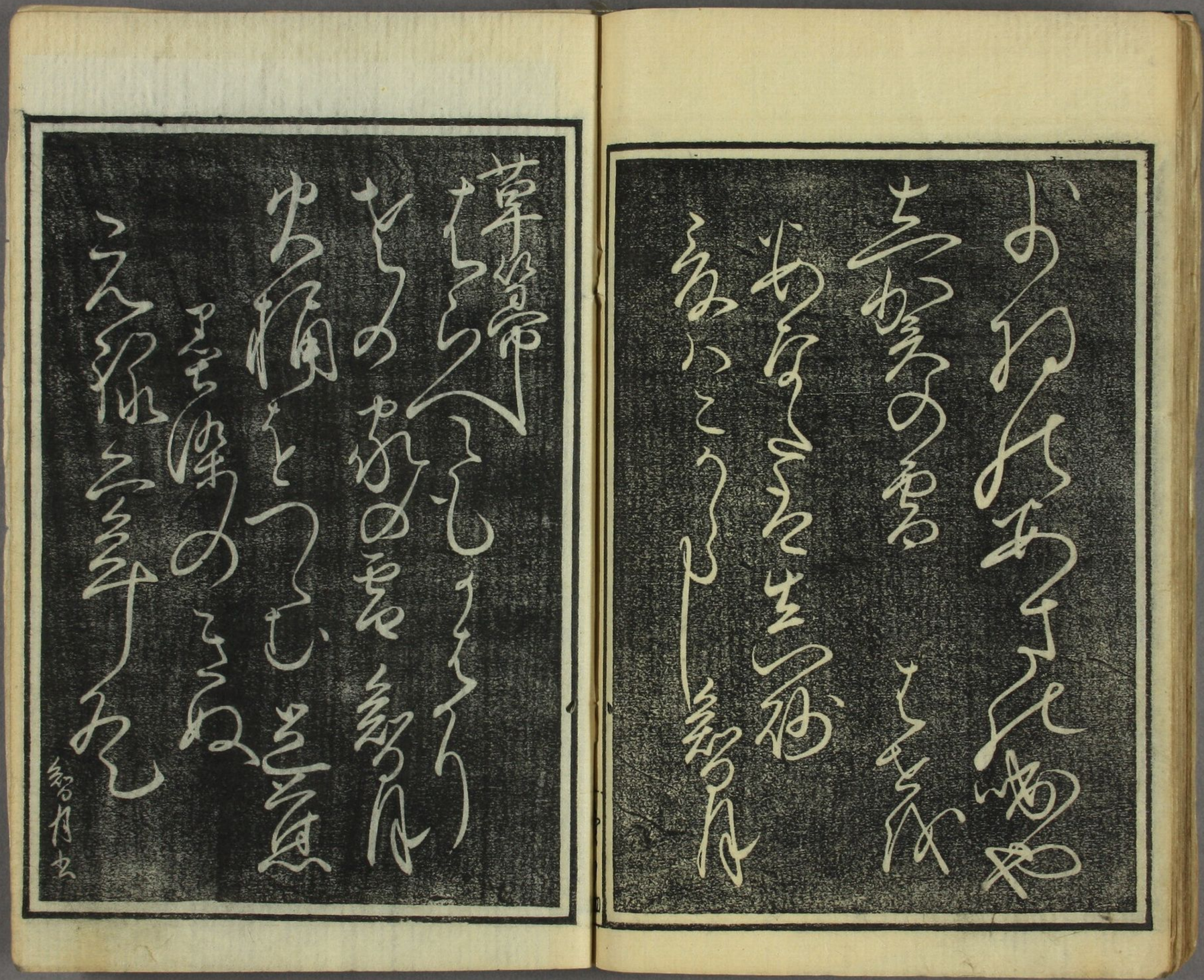
蘇鉄の
猿の墨画
ふる月





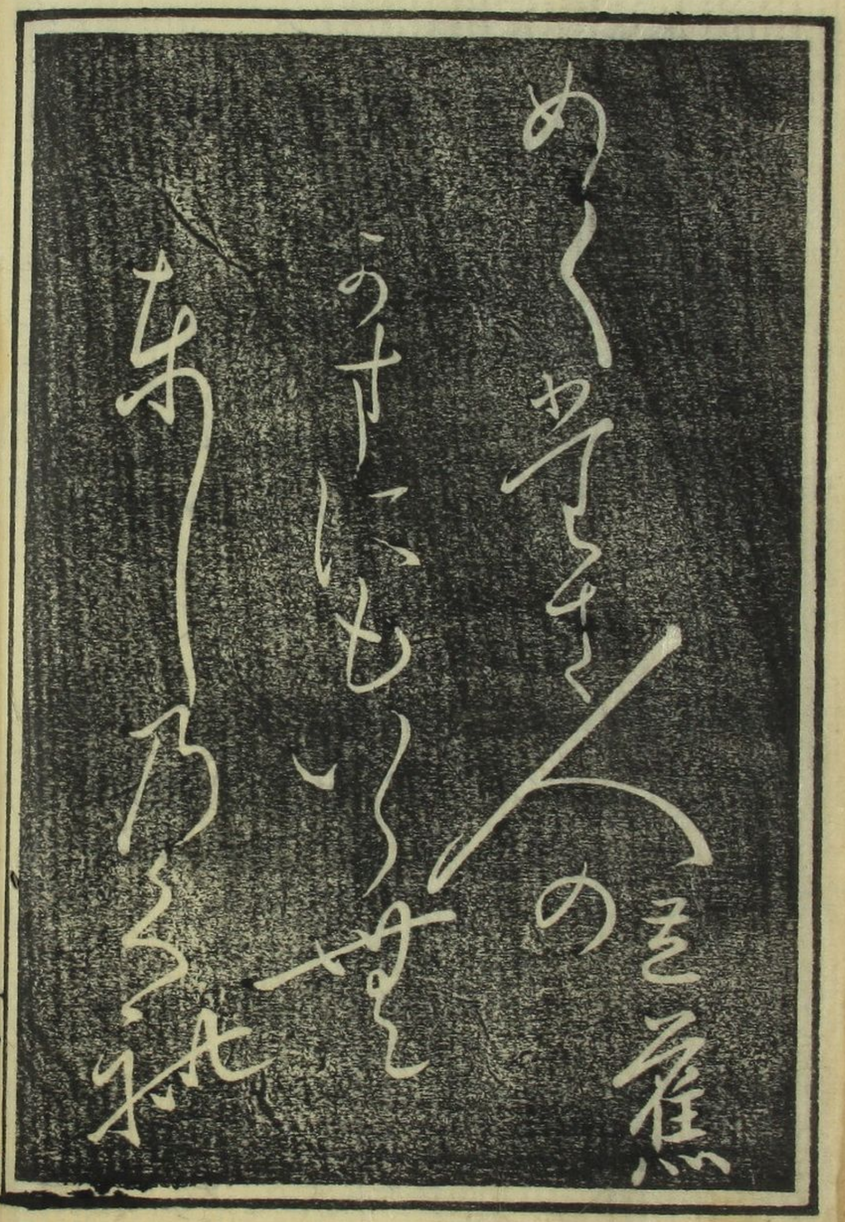






いさゝ川の
雪みてころの
夏まくら

船ちかい
學田すゝ
夕涼



日文研

弘化五
嘉永元　戊申年

芭蕉翁行
古人真蹟入　類題名家発句集　中
四冊

約住芥主薫逸編
敬枚山鼎序（弘化五年）
梅室跋

野田治兵衛外六軒

地質調査表